

市長面談（事業評価）の進め方

良い悪いではなく
どうすればより良くなるのか

茨城県鹿嶋市政策企画部政策推進課

★Mission（ミッション：使命・目的）

市民の生活に「価値」をもたらせる事業を実施し， Colorful Stage KASHIMAを実現させる

全ての事業は，現在及び将来の市民に「価値」をもたらせるために実施し，全ての市民が誇りと自信をもって自己実現できる「Colorful Stage KASHIMA」を実現させます。

★Vision（ビジョン：将来のありたい姿）

確かな根拠（論理と数字）に基づく事業の立案・実施・評価を行うことができる鹿嶋市

変化が激しく将来が見通せない時代に合わせ，これまでの経験や実績だけを拠り所とする（Episode based）のではなく，筋道だった論理と明確な数字を根拠にして（Evidence based），事業の立案から評価，事業の見直し実施までを各部署が責任をもって「価値」ある事業を実施できる組織を目指します。

★Value（バリュー：価値基準・行動指針）

論理と数字をベースとして，行政資源配分の全体最適と地域課題解決のための事業実施を両立

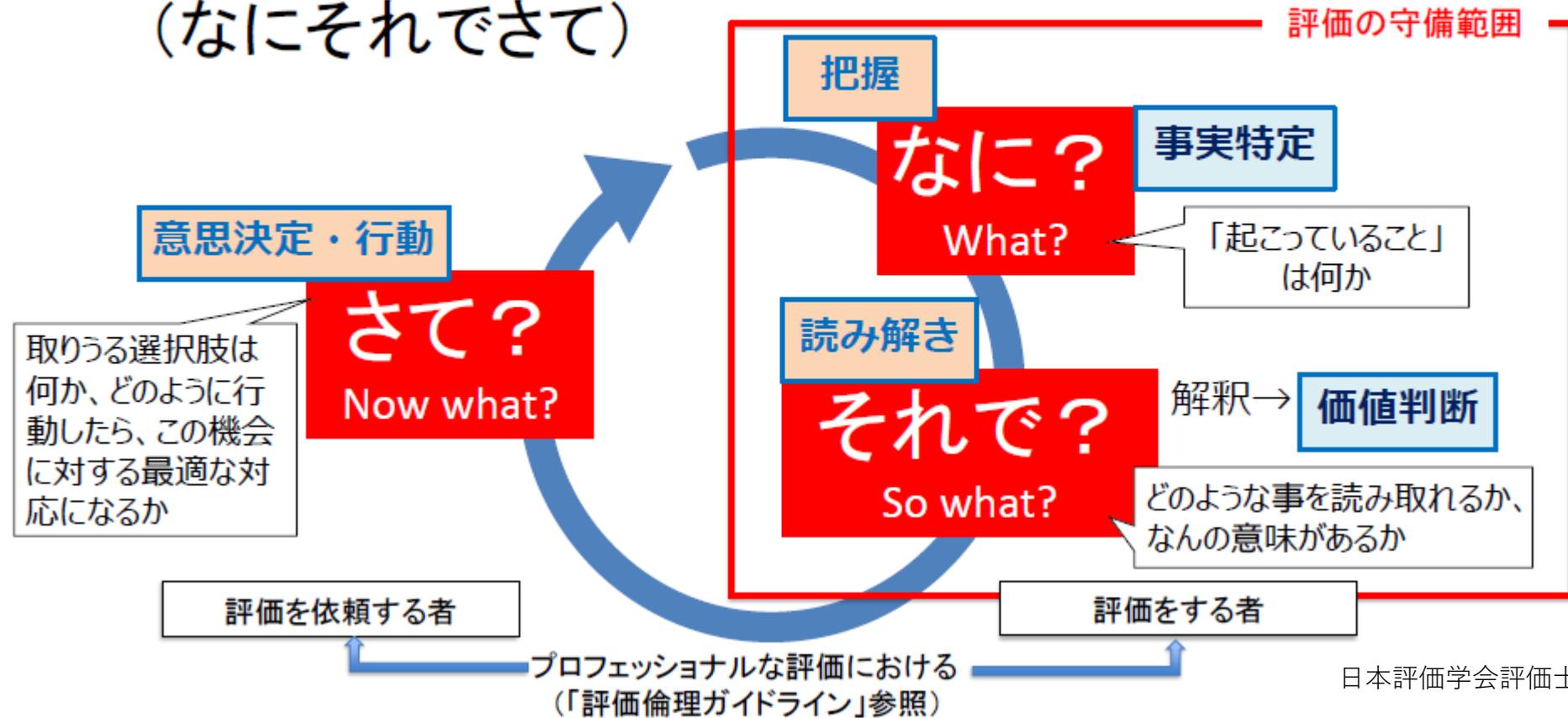
「ロジックモデル」を活用した事業の立案と評価，適時適切な見直しを行い，限りある行政資源を適切に配分することとし，地域課題解決に資する「成果の見える事業実施」を進めていきます。

評価 = 事実特定 + 価値判断

評価の基本的考え方

What?-So What?-Now What?

(なにそれですて)



事業評価を通して、誰がどのような情報を得たいのか

評価の関係者と関心

関係者	役割	評価への関心	参加者
市長 副市長	市政運営方針の決定 事業の方向性の決定	事業の進捗・実績・実施方針 事業の継続・拡大・断捨離・効率化の可能性	市長 副市長
政策企画部 政策推進課 財政課 人事課	事業全体の実績管理 事業進捗管理・評価運用 事業予算の管理 事業担当課の運営	事業の実績 事業の進捗・実績 事業の効率性・予算配分 事業への人員配置・能力育成	政企部長・次長 政推課長 財政課長 人事課長 各部担当(政推・財政) 評価士(政推・財政・人事)
部	事業の運営責任を担う	事業の実績・改善方針	教育長 各部部長・次長
課	事業活動を現場で実施	事業の実施方針・改善策	対象事業課長
議会	事業の実施内容・成果・資金 などを確認	資金を適切に使い効果を上げているか	
市民	事業の受益者	提供されるサービスの質・事業の成果	

評価の基本的考え方
評価の2大目的とアプローチ

評価の目的	説明責任の確保	事業の開発・改善
アプローチ	総括的評価 (summative)	形成的評価 (formative)
特徴	事業がすでに確立しており、主に <u>説明責任の確保</u> を志向し、判断(judgment)をあおぐ	事業の改善の余地があり、主に <u>事業改善</u> (improvement)を志向する
喩え	レストランで客が食事をして「おいしい！」と言う(おもに外部評価)	レストランでシェフが味見をしながら料理を仕上げていく(おもに自己評価)

評価士養成講座資料より抜粋

- 総括的評価** : 事業の断捨離 ⇒ 事務事業全般
- ◎形成的評価** : より効果的な事業への見直し(市長面談) ⇒ 重点事業
- ∴ 重点事業 = 「やる・やめる」 < 「実績を上げる」

事業評価（プログラム評価）の5階層

※プログラム評価の手順は日本評価学会に準拠

※個別評価の詳細は参考資料を参照

①ニーズ評価（必要性の評価）

あるべき状況と現状のギャップを明らかにする事業の「必要性」の評価

②セオリー評価（理論の妥当性の評価）

事業が目指している目的に対して、投入資源や活動がもっともらしく組み立てられているかどうかを検証・評価

③プロセス評価（実施の妥当性の評価）

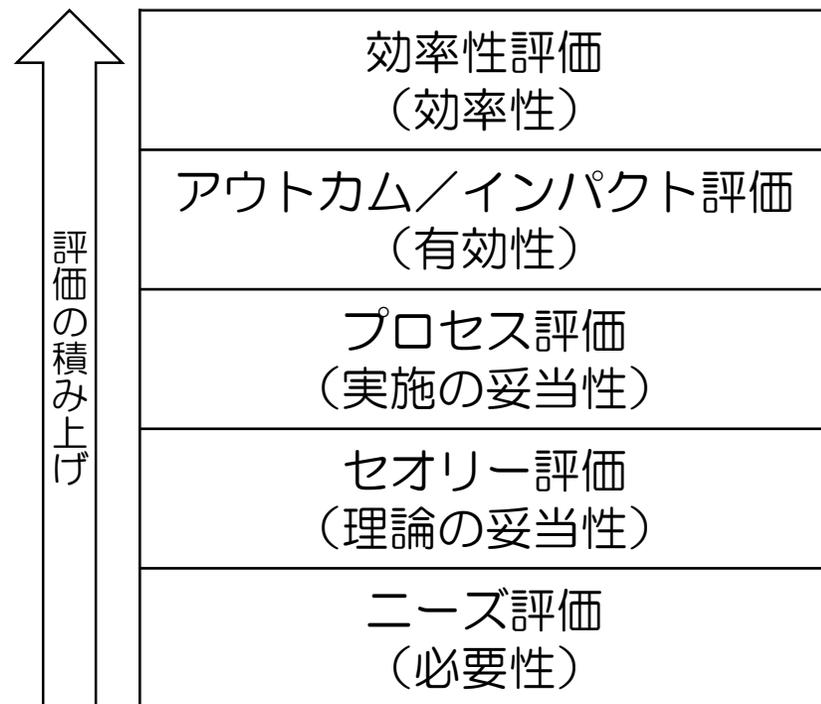
事業を展開していく実施の過程（プロセス）の妥当性を評価

④アウトカム／インパクト評価（有効性の評価）

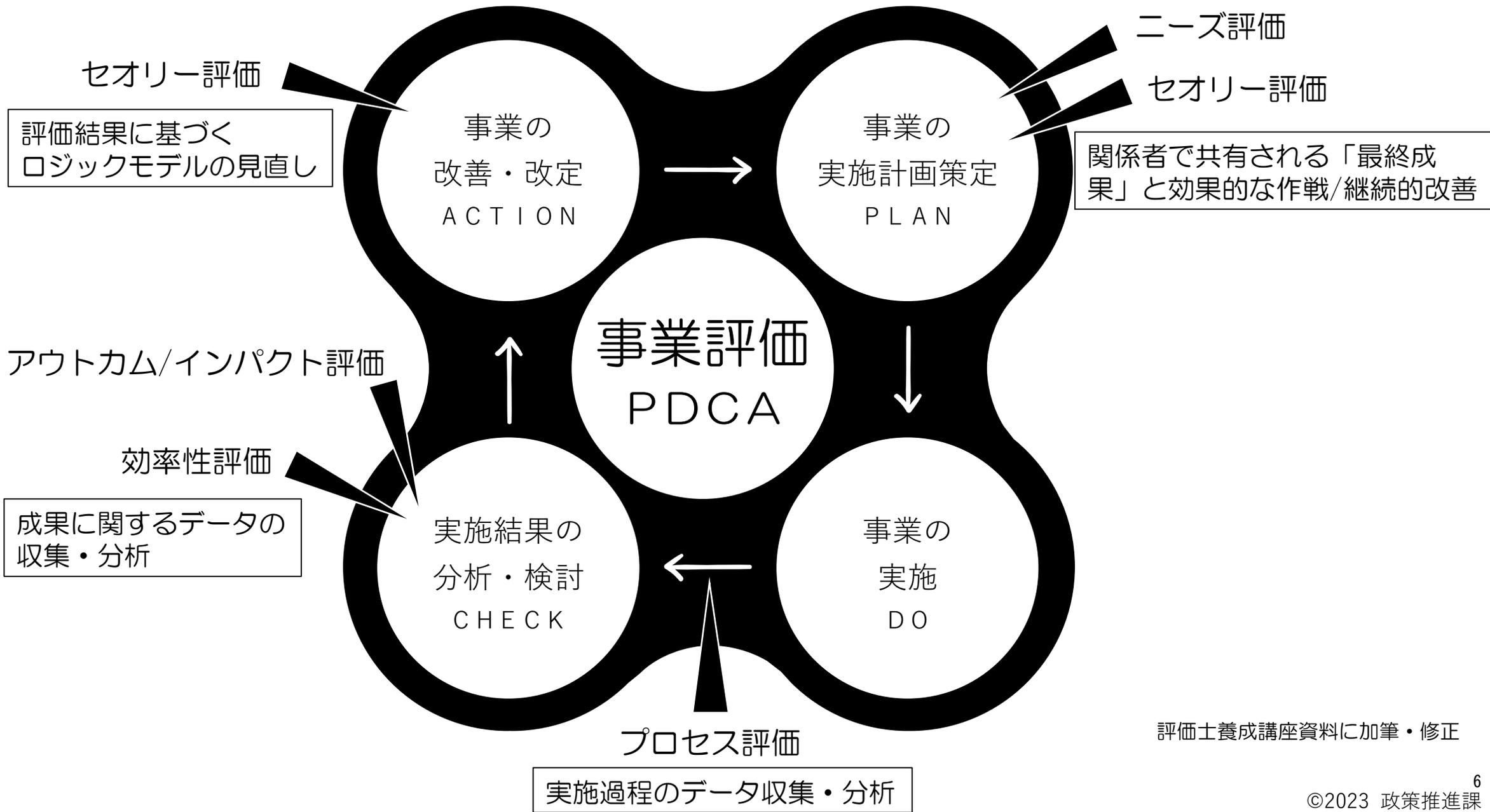
事業が一定期間実施された後に効果に焦点を当てて行うもので、その効果が当該事業の実施によりもたらされたものであるかを評価（本格的なインパクト評価実施はデータ整備や手法の検討が必要）

⑤効率性評価（効率性の評価）

投入コストに比してもたらされたアウトプット（活動の結果）やアウトカム（成果）が効率的であるかを評価（本格的な効率性評価実施は手法の検討が必要）



データ（質的・量的）に基づき意思決定を行う（EBPMの実践）



評価士養成講座資料に加筆・修正

事業評価の種類

【総括的評価】

事業の良し悪しを判断

効率性評価
アウトカム/インパクト評価
プロセス評価
セオリー評価
ニーズ評価

どれくらいの経費で
どれくらいの成果が出たか
事業は是か非か

【形成的評価】

効果的な改善策を検討

効率性評価
アウトカム/インパクト評価
プロセス評価
セオリー評価
ニーズ評価

成果をより上げるために
どう改善・実施するのか

市長面談
4月・10月

【新規事業評価】

必要性・有効性を検討

効率性評価
アウトカム/インパクト評価
プロセス評価
セオリー評価
ニーズ評価

どのような課題に
どう取り組むのか

市長面談
10月

ロジックモデルに基づき、予定どおり事業を実施した場合の事業成果に基づき、事業見直しを行う

事業評価の視点（既存）

形成的評価
効果的な改善策を検討

効率性評価
アウトカム/インパクト評価
プロセス評価
セオリー評価
ニーズ評価

成果をより上げるために
どう改善するのか
市長面談

10月面談

- ①計画どおり事業が実施されているか 【プ】
 - ・活動の有無と進捗状況（半期）
- ②事業実施上の課題の共有 【プ】
 - ・活動するうえでの課題
- ③半期でどれくらいの成果が出ているのか 【ア/イ】
 - ・活動後の成果の状況・成果指標の推移
- ④ロジックモデル修正の要否 【プ】 【セ】
- ⑤予算要求と人員配置の課題抽出 【プ】

4月面談

- ⇒計画どおり事業が実施されたか 【プ】
 - ・活動の有無と進捗状況（年間）
- ⇒効率的に事業が実施されたか（比較による検討） 【効】
- ⇒事業実施上の課題の共有 【プ】
 - ・成果を出すための課題
- ⇒どれくらいの成果が出たのか 【イ】
 - ・成果の状況・成果指標の推移
- ⇒来期事業実施方針の検討 【プ】
- ⇒ロジックモデル修正の要否 【セ】

- ①計画どおり事業が実施されているか 【プロセス評価】
- ・活動の有無と進捗状況（半期）
 - ア) ロジックモデルの「活動」「産出」の状況を定量的に逐次説明
 - ・活動実施の有無（何をどれくらい計画していて、実際どれくらい（量）実施したのか）
 - ・計画・予定どおりに事業は実施できているのか、できていない理由は何か
- ②事業実施上の課題の共有 【プロセス評価】
- ・活動するうえでの課題
 - ア) 「活動」・「産出」の過程で支障となっていること
 - イ) その改善案として実施を前提に検討していること
- ③半期でどれくらいの成果が出ているのか 【アウトカム／インパクト評価】
- ・活動後の成果の状況・成果指標の推移
 - ア) 成果指標（KPI・モニタリング指標）の推移及び実績に関する状況判断結果
 - ・成果は出ているのか、出ていない場合の理由（阻害要因）は何か
 - ・他市町村の状況や前年度と比較して、現在の成果はどのような位置づけなのか
 - ・より成果を上げるためには、どのような見直しが必要なのか
- ④ロジックモデル修正の要否 【プロセス評価】 【セオリー評価】
- ア) ①②③を踏まえて、下期の活動実施方針及び改善点
 - イ) 直ぐに見直すべきポイントはあるのか、どのように見直すのか
- ⑤当初予算要求と人員配置の課題抽出 【プロセス評価】
- ア) 来年度の予算要求の状況と人員配置の課題

①計画どおり事業が実施されているか 【プロセス評価】

- ・活動の有無と進捗状況（年間）
 - ア) ロジックモデルの「活動」「産出」の状況を定量的に逐次説明
 - ・活動実施の有無（何をどれくらい計画していて、実際どれくらい（量）実施したのか）
 - ・計画・予定どおりに事業を実施できたのか、できなかった理由は何か

②事業実施上の課題の共有 【プロセス評価】

- ・活動するうえでの課題
 - ア) 「活動」・「産出」の過程で支障となっていること
 - イ) その改善案として実施を前提に検討していること

③年間でどれくらいの成果が出たのか 【アウトカム／インプット評価】

- ・活動後の成果の状況・成果指標の推移
 - ア) 成果指標（KPI・モニタリング指標）の推移及び実績に関する状況判断結果
 - ・成果は出ているのか、出ている場合の理由（阻害要因）は何か
 - ・他市町村の状況や前年度と比較して、現在の成果はどのような位置づけなのか
 - ・より成果を上げるためには、どのような見直しが必要なのか

④効率的に事業が実施され、成果に結びついたのか（比較による検討） 【効率性評価】

- ・費用対効用，費用対効果の状況
 - ア) いくら使って、どれだけ成果を生み出したのか（1単位の効用・効果に要した経費）
 - イ) 他市町村の状況や類似事例，前年度実績と比較して，事業は効率的に実施できたのか

⑤ロジックモデル修正の要否 【プロセス評価】 【セオリー評価】

- ア) ①②③④を踏まえて，今期の実施方針及び改善点
- イ) 直ぐに見直すべきポイントはあるのか，どのように見直すのか

⑥補正予算要求の必要性 【プロセス評価】

事業立案に必要なニーズを精緻に把握し、課題解決に資する事業をどう行うか、ロジックモデルで示す

【新規事業評価】
必要性・有効性を検討

効率性評価
アウトカム／インパクト評価
プロセス評価
セオリー評価
ニーズ評価

どのような課題に
どう取り組むのか

市長面談

10月面談	
①どのような問題が生じているのか（根拠を提示）	【二】
・全体像，要因，現在の状況を把握する	
②事業のターゲットの属性と範囲	【二】
③目指すべき最終成果とその指標	【二】 【セ】
④新規事業で介入する問題の原因・手段	【二】 【セ】
・先行研究や先行事例	
⑤新規事業と既存事業との関係性	【二】
⑥利害関係者との関係性	【二】
⑦新規事業ロジックモデルの検討	【セ】
・データの取得方法・時期	
⑧予算要求と人員配置の課題抽出	【プ】

- ①どのような問題が生じているのか 【ニーズ評価】
 - ・全体像，要因，現在の状況を把握する
 - ア) どのような問題が起きているのか，問題の要因は何か
 - イ) 鹿嶋市固有の事情はあるのか
- ②事業のターゲットの属性と範囲 【ニーズ評価】
 - ア) 事業の対象はどのような属性なのか，範囲はどこまでか
- ③目指すべき最終成果とその指標 【ニーズ評価】
 - ア) 何を目指すのか，現状とのギャップはどれくらいあるのか
 - イ) 何で，どのタイミングで成果を測るのか
- ④新規事業で介入する問題の原因・手段 【ニーズ評価】
 - ア) 介入しようとする原因と手段についての先行研究や先行事例（データ・エビデンス）はあるか
- ⑤新規事業と既存事業との関係性 【ニーズ評価】
 - ア) 当該問題に対処している既存事業はあるのか
- ⑥利害関係者との関係性 【ニーズ評価】
 - ア) 利害関係者はどのような人たちがいるのか，どう連携していくのか
- ⑦新規事業ロジックモデルの検討 【セオリー評価】
 - ア) どのように事業を実施すれば成果が上がるのか
- ⑧予算要求と人員配置の課題抽出 【プロセス評価】

No.		担当課	#N/A	事業名	#N/A	施策の位置づけ	#N/A
						市長政策	#N/A

ロジックモデル部分のコスト		予算現計千円	執行済額千円	事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況	今年度予定した内容	活動：既に実施した内容 産出：活動実施後の結果	事業経費内訳	
事業経費					活動				
					活動				
					活動				
					活動				
					活動				
					活動				
					活動				
					産出				
	事業費	0	0		産出				
財源内訳	一般財源			産出					
	地方債			産出					
	国県支出金			産出					
	その他			産出					

ア 事業実施状況のうち、予定どおり進捗していない項目とその理由・対処方法			イ 半期での成果	
項目（活動・産出）	理由	検討している対処方法	成果指標（KPI・モニタリング）	半期の進捗状況説明
ウ 半期での成果の自己評価（他市町村や前年同期との比較でどのような位置づけになるか）				

評価のための様式

評価のための様式

エ 成果のうち、予定どおり成果が出ていない成果指標とその理由		オ 成果を上げるため、どのような見直しが必要か（ロジックモデル該当箇所の見直し）	
成果指標	理由	成果指標	ロジックモデルの修正内容

カ 成果を上げるため、どのような見直しが必要か（事業の進め方・予算・DX可能性など）

--	--

2 ページ

※当該様式と合わせ、同一シートに各事業のロジックモデルを貼付

事業名

#N/A

施策の
位置づけ

#N/A

施策の
位置づけ

#N/A

貢献する
成果指標

- ①
- ②
- ③

	全体計画	年度	年度	年度	年度
		予算額千円	予算額千円	予算額千円	予算額千円
投入コスト	事業経費				
		事業費	0	0	0
	財源内訳	一般財源			
地方債					
国県支出金					
その他					

ア どのような問題が生じていて、解決すべき課題は何か

①問題の状況（地域課題の背景・考えられる複数の原因）

背景：

原因：

②考えられる複数の原因のうち、新規事業で介入するポイントとなる原因

イ 介入しようとする原因と手段

③新規事業で介入しようとする原因と解決手段（どの原因に対して、どのような介入を行うのか）

原因：

手段：

④介入しようとする原因と手段に関する先行研究や先行事例（データ・エビデンス）

2 ページ

⑤新規事業と既存事業の関係性（当該問題に対処している既存事業の有無・内容）

ウ 事業対象

⑥新規事業の対象者（受益者）の属性はどのようなものか（対象者の属性・程度・範囲・状況etc）

※当該様式と合わせ、同一シートに各事業の
ロジックモデルを貼付

評価のための様式

參考資料

【ニーズ評価】（どのようなニーズが誰にあるのか）

事業実施により充足しようとする社会的ニーズは何か。事業を実施する必要はあるのか。

- ①解決や軽減を図るべき社会問題とその背景・要因の状況
 - ・問題の全体像を把握する（聞き取り調査結果・既存統計・先行研究論文・社会調査結果・既存制度など）
- ②焦点を当てて解決・軽減を図るべきターゲットの特徴
 - ・事業のターゲットを明確にする（どのような人たち（ペルソナ）が、どのような状況にあるのか）
- ③達成すべき成果や成果指標（目標値を含む）の検討
- ④焦点を当てる必要がある社会問題の原因や決定要因
 - ・社会問題の原因が何で、その原因のどこに、どのように介入すれば解決に結びつくのか
- ⑤社会問題の原因や決定要因に影響を与えうる既存の介入プログラムの把握
 - ・問題解決のために導入が求められる事業はどのようなものか
- ⑥社会問題とその解決に関心を持つ利害関係者の分析
 - ・利害関係者と問題の所在と要因・目指すべき成果・標的となる集団について合意する

【セオリー評価】（手段 ⇔ 成果は論理的なのか）

事業がどのように組み立てられていて、その設計は目的を達成するために妥当であるか。
「ロジックモデル」を作成し、実施後の評価に合わせて見直し、事業を改善する

①事業の構成要素（アウトカム・手段）のわかりやすさ

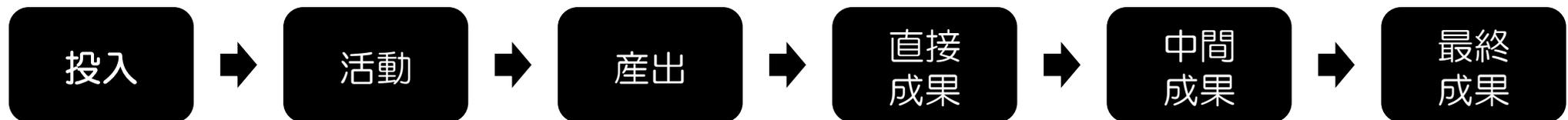
- 明確な言葉で定義されているか（誰にとってもわかりやすく書かれているか）
- 事業のターゲットは明確か

②手段（活動の組み合わせ）と目的の論理性

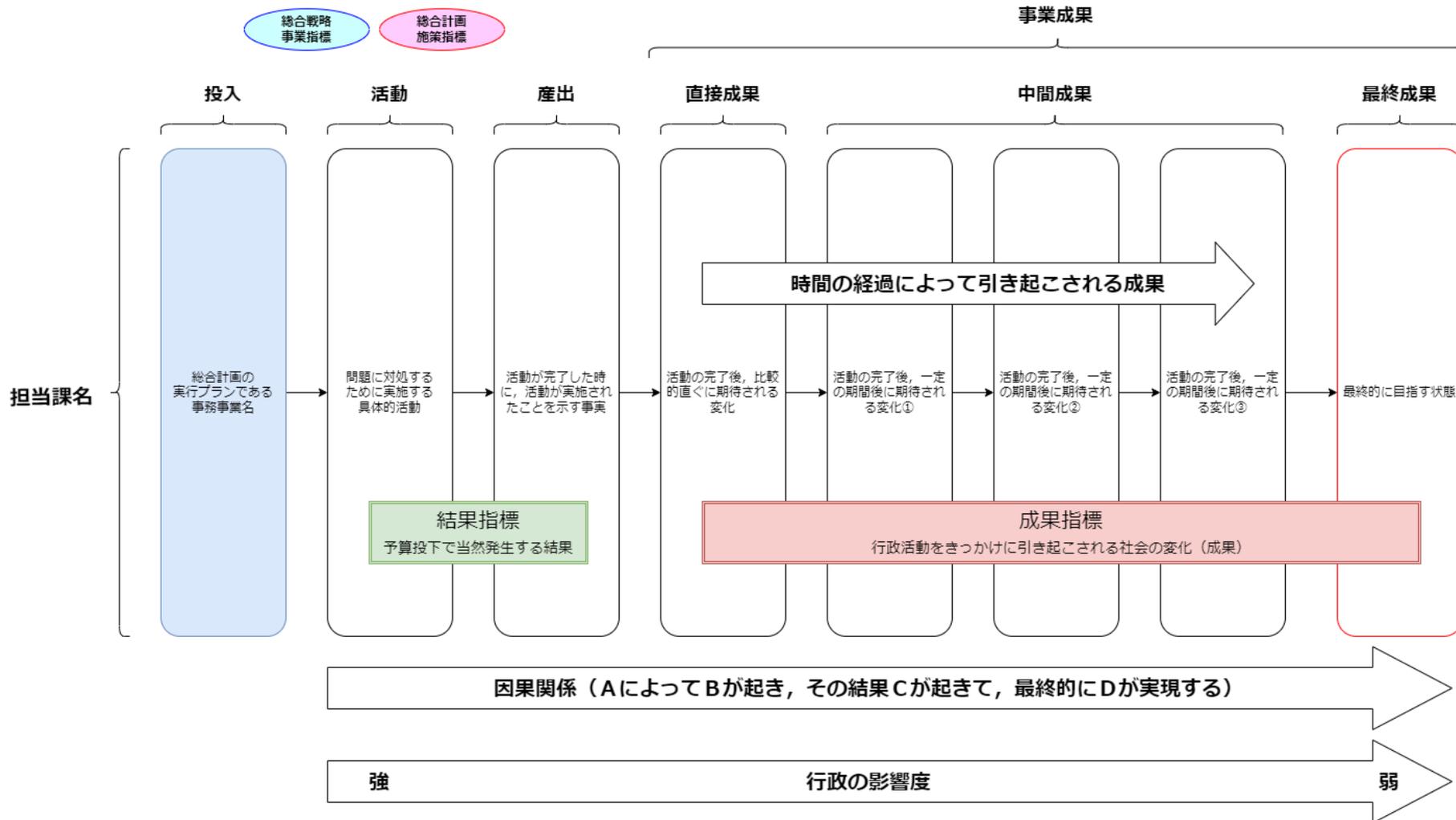
- 目的と手段の関係は論理的（もっともらしいか）か
- 目的を達成するための手段は十分か、足りないものはないか

③投入資源の妥当性

- 活動を遂行するために必要な資源（ヒト・モノ・カネ・情報など）は活動を効果的に行うために必要十分か



②セオリー評価



政策形成能力の養成

現在の行為が将来に対してどのような結果や影響を及ぼしていくのかの検討 (仮説の因果関係・ロードマップ・ストーリーの見える化)

適切な成果指標の導出

結果と成果を明確に区別し、どのタイミングで何をモニターすることが適切なのかを見極める

事業の有効性評価

事業の実施前に、どのような成果が見込まれるかを検討し、事業の実施後に期待された成果が実際に得られたかを検証する

コミュニケーションツール

庁内だけではなく、様々なステークホルダーと情報交換し、共通認識を得て、進捗管理を行っていくツールとしての活用

“評価計画表(例)”

評価設問	必要なデータ・指標	評価のデザイン			
		データ収集方法	情報源	比較方法	情報の種類
組織計画は予定どおり策定されたか??	・策定された組織計画	・策定された組織計画を確認する	・〇〇課	・事業計画に示した予定との比較	プレ・コンディション
防災訓練は予定どおり実施されたか??	・防災訓練の実施報告書	・防災訓練の実施報告書を確認する	・〇〇課	・事業計画に示した予定との比較	プレ・コンディション
組織間連携強化のための会議は予定どおり実施されたか??	・会議議事録	・会議議事録を確認する	・〇〇課	・事業計画に示した予定との比較	プレ・コンディション
防災訓練参加者の様子はどうか??	①参加者の様子 ②参加者の感想	①観察 ②インタビュー	①②防災訓練参加者	①真剣な様子があるか ②有意義という感想があるか	フィードバック
自主防災組織は活発に活動したか??	①自主防災組織の組織率 ②自主防災組織の活動実績	①市への登録件数を確認する ②市への活動実績報告を確認する	①②〇〇課	【目標値との比較】 ①〇月までに〇% ②全ての自主防災組織が年に1度活動している	アウトカム

【アウトカム／インパクト評価】（どれくらい成果が出ているのか）

- ①ターゲットや社会に変化（社会課題が解決された状態）がもたらされているか
- ②プログラム介入により成果が上がっているか
- ③成果は事業実施の結果なのか

・アウトカム評価（業績測定）

事業実施後に期待されるターゲットや社会に現れる変化の状態をとらえるもの。

厳格な評価手法ではないため、安価・簡便に取り組みやすいものの、外部要因を取り除ききれず、事業の正味の成果は導出できないため、インパクト評価と比較して信頼性は低い。

・インパクト評価

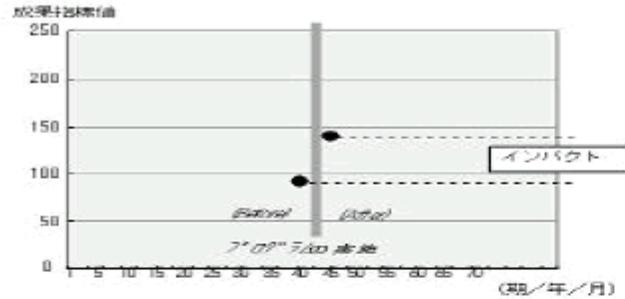
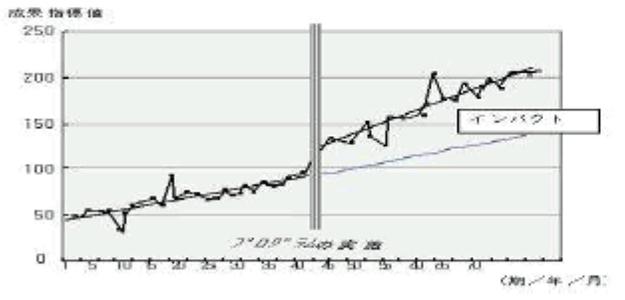
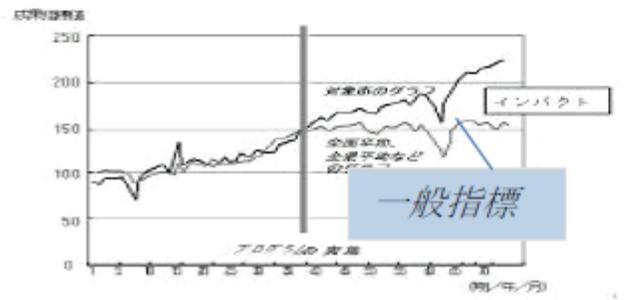
事業が一定期間実施された後の効果が、当該事業の実施によりもたらされたものであるかを検証。

実験デザインや統計的手法を用い、外部要因を取り除いた、事業と成果（純効果）の因果関係を導出する。

※業績測定

数値の指標を測定し、分析や検討を加えることで事業の改善などに結び付ける手法で、評価指標に基づき、実績値と目標値を比較し、目標達成状況を事業の達成状況とみなす。

インパクト評価の基本デザインのうち比較的簡易なもの データがきちんと揃っていれば、Excelでも実施は可能

名称と概念図	説明
<p>1. 事前・事後比較デザイン (Before-After Design)</p> 	<p>シンプルに、事前、事後の指標値を比較し、差があれば因果関係があったと推定する。簡便なので広く用いられている。ただし、事前・事後の間に発生した外部要因による影響値をまったく取り除けないので、因果関係の推定の信頼性は低い。 [検定テスト: 対応のある (一対の) t検定]</p>
<p>2. 時系列デザイン (Interrupted Time-Series)</p> 	<p>施策介入前の長期的トレンドを導き出し、施策介入後にトレンドが変わっていれば、因果関係の存在を推定する。ただし、長期的トレンド以外の外部要因による影響値を取り除けないので、信頼性はそれほど高くない。 [検定テスト: 回帰分析]</p>
<p>3. 一般指標デザイン (Generic Control)</p> 	<p>全国平均値、全県平均値などの一般指標値を比較に用いる。外部要因による影響値をある程度除去して考えることができるので(なぜなら対象地域が受けた影響とある程度同じ影響を一般指標値も受けているはずだから)、因果関係の存在の特定に関してある程度の信頼性を確保できる。わりと簡単に用いることができる。 [検定テスト: 目視による判断]</p>

佐々木亮
インパクト評価事例集より抜粋

【効率性評価】（どれくらい効率的に成果を出したのか）

- 投入と成果を測定し、その関係性を評価するもの
 - ①事業が効果的か，成果はあったか
 - ②事業実施により獲得した成果は，要した費用に見合うものか

$$\text{効率性} = \frac{\text{インプット（費用）}}{\text{アウトプット・アウトカム（成果：効用・効果・便益）}} = \text{単位当たりの費用}$$

ア) 費用効用分析 成果の主観的判断に基づく
 効用：主観的な指標（幸福度・好ましさ・満足度etc）

イ) 費用効果分析 成果そのものの数量に基づく
 効果：直接的，客観的な効果指標

ウ) 費用便益分析 成果を貨幣換算する
 便益：金額に変換

- 費用の産出に会計情報を使用する場合の注意点
 - ①予算は資源の分配計画であるため，過大過少が生じる可能性がある
 - ②会計情報は機関の資金の出し入れ情報のため，収入支出として扱われない資源の使用はすべて無視される

※重点事業：総合戦略事業及び優先順位の高い市長政策事業

1) これまでの問題点と改善の方向性

- | | |
|-------------------|--------------------------------|
| ①前例踏襲・現状維持の意識 | →状況の変化に合わせた事業の適切な見直し |
| ②不明確な取組みと成果の連動性 | →目指すべきゴールとそこに至るロジックの見える化 |
| ③あいまいな成果指標と数値目標 | →事業の進捗と成果把握のための適切な指標と数値目標の設定 |
| ④マンネリ化する事業評価 | →取り組みから成果までの見える化を通じた行政経営的評価の実施 |
| ⑤総合計画・総合戦略の形骸化の恐れ | →総合計画・総合戦略の実効的進捗管理 |

2) 改善方法

- ①重点事業に設定された成果指標と数値目標での進捗管理
- ②重点事業の取り組み内容と総合計画で掲げた目標までを**ロジックモデル**で見える化
- ③ロジックモデルの各要素のうち、**重視すべき項目に成果指標及び数値目標を設定**
- ④市長面談を通じた**全庁的でオープンな議論**で事業の進捗を管理
- ④**行政経営の観点（データに基づく①行政資源の最適配分②事業成果の見える化）からの評価**を実施
- ⑤形骸化防止のため、総合計画審議会でも外部評価を実施＋随時ロジックモデルを公開（**客観性の担保**）

ロジックモデルを活用した、行政経営的視点からのオープンな議論

E B P M（確かな証拠（エビデンス）に基づく政策立案）とロジックモデル

○エビデンスの2つの意味

①「問題の状況や要因」 ②「政策の効果」

→エビデンスに基づく政策立案のためには、①②を可視化して議論することが必要

○ロジックモデルの有用性

→施策における目的と行政の活動との結びつきを図示することができる

→ロジックモデルにすることで、多様な関係者で事業の検証が可能になる

→事業実施前後に有効性を検証可能（事前：仮説の正しさ，事後：事業過程/成果の検証・事業見直し）

→評価指標の設定の際に混乱する「アウトプット（結果）」と「アウトカム（成果）」の区別が容易

○国の動向

・総務省「E B P Mに関する有識者との意見交換会」

→E B P Mの前提としてロジックモデルを明らかにすることが重要であるという意見

・内閣府「内閣府本府におけるE B P Mの取組について」

→新規に予算要求事業を対象にロジックモデルを作成。事業を実施する場合は、ロジックモデルを精査したうえで効果の検証を行う

市長面談総括会議 アジェンダ

1 目的

中間面談における市長指示事項を各部において整理し、中間面談で実施した**“Check”（事業実施結果に対する分析・検討）に対する“Action”（事業の改善・改定⇒ロジックモデルの見直し）**と、**“Action”に対する“Plan”（戦略・作戦）**について各部から市長に対し報告を行うことで、総合戦略及び市長政策を円滑かつ着実に推進することを目的とする。

2 会議メンバー

市長，副市長，教育長，政策企画部長，DX行革推進室長，総務部長，市民生活部長，健康福祉部長，経済振興部長，都市整備部長，教育委員会事務局部長，政策企画部次長，政策推進課長，財政課長，人事課長，3課連携担当課長補佐，評価士，政策推進課・財政課各部担当者

3役及び全部長が、総合戦略及び市長政策における当面の重点化施策を共有・把握することで、担当部局責任者としてのアカウンタビリティに加え、より大局的見地から、市としての“Action”と“Plan”を市民に対し示していく。

“金がない・人がいない⇒業務ができない” から “市では〇〇に注力するためリソースを配分している” へ

3 日程・場所

1日目： 令和5年11月24日（金） 9：00～12：00 会議室204

経済振興部・市民生活部・都市整備部・総務部・DX行革推進室 ※終わらなければ2日目に実施

2日目： 令和5年11月30日（木） 13：00～17：00 会議室302

健康福祉部・教育委員会・政策企画部

4 議題

- ① 市長指示事項についての各部における対応方針の確認
- ② 評価シート及びロジックモデルの修正点の報告